

マニフェスト大賞

福島町議会が
最優秀成果賞

東京で授賞式

【福島】全国の地方議員や議会、首長を対象にした政策コンテスト「第二回マニフェスト大賞」(ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟など主催)の最優秀成果賞に福島町議会が選ばれた。議員活動の自己評価を公開するなど、住民に関わった議会づくりを進めた点が評価された。



受賞のあいさつをする溝部議長(中央)

町議会は二〇〇五年から議会と議員の評価制度を導入し、ホームページ(HP)で公開している。議会評価は議会の活性化などを議会運営委員会で決定。議員については、各議員が財政や福祉など六分野にわたる一年間の自身の活動を任意で評価している。さらに議員視察を廃止し、一円から領収書添付を義務づけた上で、月額五千円の政務調査費を今年九月に導入。報告書もHPで公開することになっている。

同大賞は住民本位の政策を提言した地方議員や議会をたたえようと創設。今年はマニフェスト大賞など六部門に全国から三百三十八団体五百四十七件の応募があった。優れた政策を実現した議会や会派に贈られる最優秀成果賞には三十三団体の応募があり、受賞は福島町議会を含む二団体のみ。町議会は昨年の同大賞で、審査委員会特別賞

を受賞した。

九日東京都内で開かれた授賞式に出席した溝部幸基議長は「今後も議会と町民がしっかりと議論できる仕組みを整えていきたい」と話した。

(満園徹)